※本文内の( )内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎増減が目立った大学

□志願者数が最も増加した大学は東京都立大、最も減少した大学は鳥取大
東京都立大など南関東の4大学で 1,000 人前後の増加

ここでは、大学全体の志願者数が大幅に増減した(500 人以上)国公立大についてまとめます。

500 人以上増加した大学は 15 大学(国立大9大学、公立大6大学)、500 人以上減少した大学は 12 大学(国立大9大学、公立大3大学)でした。

志願者数が最も増加した大学は東京都立大で、1,411 人(122)の大幅増加でした。東京都立大以下、富山大(126)、千葉大(110)、横浜国立大(112)、山口大(119)までの5大学でいずれも 1,000 人以上増加しました。

東京都立大、千葉大、横浜国立大といった南関東の国立大での増加が注目されます。また、これらの大学に次いで、同じ南関東の埼玉大(116)も 971 人の増加でした(右表)。前期、後期で募集を行っているこれら4大学ですが、いずれの大学も前期、後期ともに増加しており、人気の高まりがうかがえます。

大学名	増減数	志願者指数	
		2025年度／2024年度	2024年度／2023年度
東京都立大	+1,411	122	97
千葉大	+1,111	110	103
横浜国立大	+1,040	112	91
埼玉大	+971	116	99

一方で、同じ南関東の大学では、東京大で 1,000 人以上、東京科学大で 300 人以上減少しています。共通テストの平均点はアップしましたが、高まる現役志向もあり、競争の激化を見越して志望校を下げる安全志向が働いた結果、東京都立大といった準難関大学の志願者数増加に繋がったと考えられます。また、東京大で理科三類を除く科類で第1段階選抜基準の引き締めを行ったことも要因の一つとして挙げられます。これまでの第1段階選抜基準であれば東京大を志望していた学力の受験生の層が、先述の安全志向で志望校を下げた結果としての増加といえそうです。

また、東京都立大では授業料無償化の所得制限撤廃(生計維持者が東京都内に住んでいる場合)、横浜国立大では2段階選抜の廃止といった志願者の増加に繋がる変更点もありました。

一方で、最も減少した大学は鳥取大で、1,191 人(74)の大幅減少でした。鳥取大以下、島根大、東京大の3大学で 1,000 人以上減少しました。東京大については先述した第1段階選抜基準の引き締めが減少の要因の一つとして挙げられます。

鳥取大、島根大についてはそれぞれ前年度 500 人以上増加した大学にあたり、前年度増加分以上の減少でした。中国地方の国公立大で鳥取大、島根大は 2025 年度入試まで3年連続、山口大は8年連続で 500 人以上の大幅な増減を繰り返しています。大学の数が限られているこれらの地域では、一度大幅な増減が発生するとその後も増減が継続しやすいといえます。

[増加が目立った大学]

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2025年度／2024年度	2024年度／2023年度	2025年度	2024年度	
東京都立大	+1,411	122	97	7,866	6,455	前期、後期ともに大幅増加。特に後期は7学部全てで大幅増加。前期では、理(128)、法(120)、システムデザイン(120)は大幅増加で2年連続増加。後期でも法(150)は大幅増加で2年連続増加。他の6学部はいずれも前年度減少の反動で大幅増加。
富山大	+1,365	126	81	6,657	5,292	前期は前年度大幅減少の反動、後期は3年連続減少の反動でいずれも大幅増加。前期では、前年度大幅減少の医(医)(253)、理(211)、工(134)、薬(126)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。後期でも、理(227)、都市デザイン(139)、人文(137)は大幅増加。
千葉大	+1,111	110	103	11,914	10,803	前期は2年連続増加、後期も増加。前期では、法政経(126)、看護(124)、工(123)、園芸(116)、理(115)で大幅増加。なお、薬(103)は5年連続、理(105)は3年連続、教育(109)は2年連続増加。後期でも理(104)、文(106)は3年連続、法政経(123)は2年連続増加。
横浜国立大	+1,040	112	91	9,637	8,597	前期、後期ともに増加。前期では経済(137)、教育(134)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、都市科学(116)は大幅増加で4年連続増加。後期でも都市科学(143)、理工(116)は大幅増加。経済、理工などで実施していた2段階選抜の廃止による影響も大。
山口大	+1,002	119	76	6,186	5,184	前期、後期ともに大幅増加。前期では、医(医)(63)、医(保健)(62)を除く学部で増加。特に共同獣医(185)、工(167)、人文(161)は激増。後期でも、医(医)(182)は2年連続減少の反動で激増。
都留文科大	+976	133	111	3,911	2,935	前期はやや増加、中期は大幅増加でいずれも2年連続増加。特に中期の教養(146)は前年度改組で募集人員が増加したこともあり、2年連続で約1.5倍増。中期の文(129)も大幅増加で2年連続増加。
埼玉大	+971	116	99	7,174	6,203	前期はやや増加、後期は大幅増加。特に後期は経済(84)を除く4学部で20%以上の大幅増加。同じ南関東の、前期で増加した大学の併願先として選択されたことが増加の一因。特に、教養(173)は大幅増加で3年連続増加。
山陽小野田市立 山口東京理科大	+728	146	66	2,311	1,583	前期は前年度ほぼ半減の反動と薬(薬)の新規実施で倍増以上、中期は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。前期における薬(薬)の志願倍率は24.8倍で、前期同系統の募集単位では最も高い倍率だった。
愛媛大	+704	116	99	5,244	4,540	前期は増加、後期は大幅増加。後期では、理(167)が前年度ほぼ半減の反動で激増したほか、教育(160)、工(129)、農(115)で大幅増加。
公立諏訪 東京理科大	+641	167	72	1,594	953	前期は前年度大幅減少、中期は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。中期の志願者数は3年ぶりに1,000人を上回った。
鹿児島大	+599	111	98	6,173	5,574	前期、後期ともに増加。前期では医(医)(150)は大幅増加。また、歯(116)も大幅増加で3年連続増加、増加前の2022年度と比較すると約2.5倍増。後期でも医(医)(115)は大幅増加で2年連続増加。
熊本大	+598	115	105	4,619	4,021	前期は大幅増加で2年連続増加、後期は3年連続増加。前期では、法(136)、工(134)、教育(130)、文(130)の4学部が大幅増加。後期では、4学部中、工(86)を除く3学部が大幅増加。
新潟大	+591	112	96	5,582	4,991	前期は前年度並、後期は大幅増加。後期では、工(198)はほぼ倍増で、2年連続大幅増加。法(193)も3年連続減少の反動でほぼ倍増、理(143)も大幅増加。
名古屋市立大	+569	113	97	4,784	4,215	前期は4年連続増加、後期は2年連続増加、中期は前年度並。前期では、(データサイエンス)(227)、(人文社会)(165)は激増。後期も4学部中、芸術工(90)を除く3学部で大幅増加。
高知工科大	+569	147	70	1,767	1,198	前期、後期ともに2年連続減少の反動で大幅増加。前期では、前年度60%以上減少の反動で約2.5倍増の前期・システム工(245)など、反動による増加が目立った。前年度新設のデータ＆イノベーション(165)も大幅増加。

[減少が目立った大学]

大学	増減数	志願者指数		志願者数		コメント
		2025年度／2024年度	2024年度／2023年度	2025年度	2024年度	
鳥取大	-1,191	74	143	3,458	4,649	前期、後期ともに前年度大幅増加の反動で大幅減少。前期では、医(医)(197)、地域(119)、農(119)で大幅増加したが、工(40)が前年度倍増の反動で激減、工だけで600人近い減少だった。後期では募集人員減少の工(64)など4学部全てで減少。
島根大	-1,076	75	139	3,160	4,236	前期、後期ともに減少。前期では、生物資源科学(42)は約4倍増の反動で半減以下。後期では、医(看護)(56)、人間科学(61)、生物資源(66)、総合理工(72)で大幅減少。
東京大	-1,011	89	101	8,421	9,432	前期のみの募集で、全科類で減少。第1段階選抜基準変更への警戒感に共通テストの平均点上昇が加わり、出願を手控える層が増加した。
三重大	-987	82	105	4,444	5,431	前期は前年度大幅増加の反動で大幅減少、後期は2年連続減少。前期は前年度大幅増加の反動により半減以下の医(医)(42)など全学部(医は学科別)で減少。後期も工(101)を除き減少で、特に教育(85)は2年連続大幅減少。
京都工芸繊維大	-922	57	104	1,224	2,146	前年度志願者数890人の後期廃止による減少が主で、前期はやや減少。ただし、前期も募集人員の増加により志願倍率は3.8倍→3.2倍にダウン。
福井大	-784	77	164	2,611	3,395	前期、後期ともに大幅減少。前期では、医(医)(80)、工(80)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。後期では、国際地域(67)、工(70)、医(医)(74)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。ただし、工は募集人員の減少も大きく、志願倍率は7.1倍→7.0倍のわずかなダウン。
北九州市立大	-770	84	125	4,011	4,781	前期、後期ともに前年度大幅増加の反動で大幅減少。前期は国際環境工(105)を除く5学部で減少。後期は5学部全てで減少。経済(87)は2年連続減少だが、その他の学部はいずれも前年度増加しており、反動による減少。
信州大	-633	90	96	5,661	6,294	前期、後期ともに減少で、後期は2年連続減少。前期では、繊維(71)は大幅減少で2年連続減少、医(医)(62)、教育(80)、理(82)は前年度増加の反動で大幅減少。後期では、繊維(69)、教育(71)、理(82)は大幅減少で2年連続減少。
長崎大	-609	87	117	3,988	4,597	前期は前年度大幅増加の反動で減少、後期も減少。前期は前年度倍増以上の反動で大幅減少の医(医)(74)など、反動による減少が目立った。後期は薬(薬)の廃止による減少が大きく、薬(薬)を除いた比較では(106)のやや増加。
茨城大	-584	91	117	5,666	6,250	前期は微減、後期は前年度大幅増加の反動と後期の募集人員縮小により減少。後期は農(48)の半減以下が目立ったが、後期全体では募集人員の縮小の関係で志願倍率は9.2倍→9.3倍にアップ。
秋田県立大	-571	71	121	1,382	1,953	前期、後期ともに大幅減少。前期では、システム技術科学(44)は大幅減少、生物資源科学(77)も大幅減少で3年連続減少。後期では、生物資源科学(131)は大幅増加だが、システム技術科学(60)は大幅減少。
岐阜薬科大	-532	55	143	643	1,175	中期のみの募集で、前年度大幅増加の反動でほぼ半減。2022年度から前年度の反動による大幅な増減が継続。志願倍率は15.1倍→8.1倍にダウン、4年ぶりに10倍を下回った。